

## 令和4年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

### 県南会場

#### 科目 ①障害児の支援 インクルーシブ教育

- ◆ インクルーシブ教育の理念、気になる子どもの理解と対応策の検討、周りの子どもの理解と共生について、講義と演習を交えて研修することができ、これからの私たちの支援の仕方を学ぶことができました。障害のみではなく、トランスジェンダー・貧困などによる社会的障壁をつくらないためにも、合理的配慮を行い、一人一人の多様性を尊重し、一人一人を大切にしながら共生社会の実現を図ることができるように、日々の学童保育を実施していきたいと思います。
- ◆ 今回の研修では「インクルーシブ教育」について学びました。個人に必要な「合理的配慮」が提供されること等が必要とされていて、不当な差別的取扱いをしてはいけないことを再確認しました。気になる子どもの理解と対応策の検討を演習する際、現在担当している気になる子どもを思い浮かべ、どのように接すべきかを考える機会がありました。見方を味方に変える（リフレーミング）は、一人一人の多様性を尊重するための術だと痛感しました。
- ◆ 日々の支援の中で、私たちが困ってしまう子どもが毎日を精一杯努力していることを忘れてしまっていました。自分の尺度で判断してしまいがちだったことを反省するとともによい機会になり、的確に伝える配慮や事例を踏まえて早速実行しようと思いました。また、保護者の方々に寄り添うためにもリフレーミングの具体例がもっと知りたいと思いました。講師の先生がとても分かりやすく講義してくださったので、グループワークも周囲の方々と活発にできました。
- ◆ 気になる子どもの理解と対応策の検討ということで、今回の研修では普段の生活の中での支援方法となる答えをたくさん見つけられました。特に発達障害の特性は様々で、一人一人に合った対応が必要なのは勿論ですが、要因を探ることで指導や支援のあり方をより学ぶことができるのではないかと感じました。今在籍している児童で支援が必要な子どもたちに対しても、まずは信頼関係をしっかり築くことが大切であると考えています。関わり方の基本として、①「好ましい行動を褒める」②「好ましくない行動は見守るか、肯定的・具体的に指示」③「危険・許しがたい行動は注意、阻止」とあり、②の行動にはつい「駄目です、やってはいけません。」と注意をしがちですが、なぜ駄目なのかを具体的な言葉で伝えることで問題行動を減らしていけるように思います。支援児童だけに限らず他の児童との関わりの中で、相手の気持ちを考えることや自分の気持ちを上手に伝えるという点で難しいと感じている児童もいるからこそ、子どもたちにとってたくさんの経験や色々な積み重ねが必要です。支援員である我々の関わりは、正しい支援を受けられる環境をつくっていく重要な役割と改めて実感しました。